

ダラスのワーキング女子へエールを!

「DJCWのマンズリーメッセージ」

備えあれば 憂い無し

私はどうでも心配性です。何でもかんでも最悪のケースを考えて、事前に色々準備してしまつタイプです。よい事でもあるけれど、度を過ぎると考えものですよね。メンタルも疲れちゃいますし。特に最近はずい二ユースが多いので、私の心配性スイッチに火が付きやすく、困つたものです。あまりに心配性なため、周囲をビックリさせてしまつことも。つい先日もやはりかしてしまつました。

それは、私が共同運営をしているNPO法人、Dallas Japanese Career Women (DJCW)が銀行口座を開設する日のごです。新しく口座を開くことので、私以外にも他のメンバー二人も同席し、合計三人で銀行で手続きをすることにになりました。手続き自体は特に何の問題もなくスムーズに進んでいったのですが、それを横目で見ながら、「もし私達三人に何か想定外のことが起こつたら、この口座ってどうなるんだらう?」といった心配がむくむくと頭に湧いてきました。いったん私の心配性スイッチがオンになると、もう止まりません。もしこんなことが起きたら、もしあんなことになつたら…。ネガティブな考えばかりが頭にどんどん浮かんでいきます。どうしよう…。そんな私の思いを、最後に、口座開設はとんとん拍子で進んでいきます。最後、手続きの締めくくりになつて、何かと質問はありますが、銀行員さんが聞いてきてくれました。よし、質問のチャンス!「もしこの三人のうちの誰かが退会したらどうなるのだらうか?」「誰かが事故にあつて銀行に来られなくなつた場合は?」「四人目のメンバーを追加する場合?」「メンバーが海外に行つてしまつたら?」「もし何かよからぬことが起きて、私達が植物人間になつてしまつたら?」「メンバーが死んじゃつたら?」…。最初は笑顔で、「いい質問ですね」と、とわやかに対応してくれた銀行員さん

だんだんと「こいつは一体何を言っているんだ」といった顔つきに。え、でも気になる質問だよね?聞いておいた方がいいよね?と思ひ、同意を求めようと同席したメンバー二人の顔を見ると、二人とも口はあんぐり、目が点状態。あー、またやつてしまった!「ちよつとー、私達を殺す気?」と半ば冗談で笑われてしまいました。ちなみに銀行員さんによると、植物人間になつてしまつたとしても、Dower's Attorney (委任権)を譲渡した代理人がいれば、その人を通して銀行手続きを進められるそうです。ホッ。いやー、でもさすがに最悪のケースを想定しすぎたかな。でも何かあつてからでは遅いですよね。今元氣な時に、考えられることは全ておさらいしておきたい!先月の記事にも書きましたが、最近エステートプラン(遺言書)の準備をしたこともあつて、頭の中が「もしもこのことがあつたらどうしよう?」モードになつているのかも知れません。

他にも、最近の私の心配性の例といえ、非常用のバックパック作ります。「コナヤラトルネードやらうほほ毎日耳にする暗い二ユースも、私のこの心配性モードに拍車をかけているのかも。ある日、もしものために非常用のバックパックを作つておこうと思ひ立ち、準備を始めました。さあバックの中に何を入れよう?ネットで調べ、入れるべきものを買ひ集めました。水やエナジーバーなどの食品に加え、娘の着替えやおもちゃなどの子供向けのもの、パスポートや現金など、非常時に必要であろうものをせつせと詰め込み、よしーとバックパックを背負つてみると…重い、重すぎると。こんなものを背負つて非常事態に走れるのだろうか…。結局中身の見直しをする羽目!。備えあれば患いなしとはいふものの、過ぎたるは猶及ばざるが如しともいふし。何事もバランスですね。

私のこの心配性な性格はここから来たんでしよう。元をたどれば親からかも。そういえば実家でも、母は常に非常用のバックパックを作つていたんです。私がまだ保育園に通つていた頃に、家の辺りがひどい台風で洪水となり、祖父母の家に避難して居候していた時期がありました。そういった過去の教訓からも「もしものために」といふ思いが常にあるのかも知れません。そういえば母が作った非常用バックパックにはいつもカロリーメイトが入つていました。

なんだか懐かしい。私のバックパックにもカロリーメイトを入れたけれど、ダラスのどこで買えるのかしら?ご存じな方がいたら教えて下さい。

ここまで私が心配性なのは、日本人というお国柄も関係しているのかなと思つていたのですが、いやー私の夫(アメリカ人)もかなりのものでした。「コナヤが始まるやら否や、「食べ物がなくなつたら困る!」とスーパーへ走り、缶詰や乾燥食品やらを大量購入(すいません、スーパーでの売り切れ騒動に貢献してしまいました)。ただ、パニックモードで大量購入をしたため、「これ本当に食べるの?」と首をかしげたくなるような缶詰食品なども。その時に買ったのPAMなどが未だに我が家のパントリーに鎮座しております。これ、どうやって料理しようというの?」

「コナ騒動もなんとなく落ち着き、日常を取り戻してきたかと思つたら、今度は選挙です。「人種差別が激しくなつて、白人以外は何かの標的になるかもしれない」と夫が言い出しました(夫は黒人です)。またまたーと思ひつても、昨今のPAMなどの社会運動もあるし、あり得ないことでもないなーと納得。特に私達は、ダラス中心から外れた郊外(というか田舎)に住んでいるので、マイノリティーを喜ばない人達もいるのかも知れません。特に今すぐ何かできるわけでもないのですが、周囲に気をつけるようにはしています。

考えるだけで疲れる内容ではありませんが、最悪のケースを予測し回避するのは、仕事ではとても重要です。いわゆるリスクマネジメントですね。特に私のようにプロジエクトマネージャー関係の仕事をしている場合は、いくつかのシナリオを考えて先に動くというのは必須です。きちんとしておかないと、最悪の場合は調停、仲裁、そして訴訟です。実際に訴訟に行った同僚の話も聞きましたし、あと一歩で調停となつたことも過去に何度ありました。その話はまだ今度。

備えあれば憂いなし。自分が安心できる準備をして、あとはリラックスしていきましょう。です。ね。

プロフィール:

DJCW(Dallas Japanese Career Women)ダラス在住の働く日本人女性2人が2018年に立ち上げた会。「ダラスにて頑張っている日本人のキャリア女性を応援し、ネットワークの場を作ろう」という趣旨で、毎月イベントなどを通してネットワークの場を作っている。

メールアドレス: djcwomen@gmail.com
ウェブサイト: www.djcw.org